



松小シンボルツリー
ゆりのき

ゆりのきっ子

宇城市立松橋小学校
学校だより 第8号
令和8年10月6日
文責 野田 直子



【教育目標】「夢」実現のために「学び合い・支え合い・高め合う」児童の育成
【教育スローガン】ウェルビーイングな未来へ～夢いっぱい・笑顔いっぱい・元気いっぱい～
【重点的に育てたい資質・能力】「進んで学ぶ力」「気持ちよくかかわる力」「行動力」



子どもを「学びの主人公」にする授業づくり



子どもを「学びの主人公」にする授業づくりの取組のなかでも、「学びの主体性を生む『問いの設定』の工夫」「自他の考えのよさに気付かせる『話し合い』の工夫」「学びがつながる『振り返り』の工夫」に取り組んでいます。2つの研究授業の様子を紹介します。



「身の守り方は○色」と言い、シールを教科書に貼る1年生



教科書の言葉を示して話し合いを進める1年生

7月1日の1年1組国語「どうぶつくいずをつくろう」では、前時のある振り返りから、この授業で何を解決するのかをめあてにしました。「(シールの)緑が貼れなかった」という発言から話し合いが繰り広げられ、教科書の言葉を示した発言も次々と見られました。最後の振り返り

りでは、「(他の動物に続き)すかんくのくいずもできた」と達成感が伝わってきました。

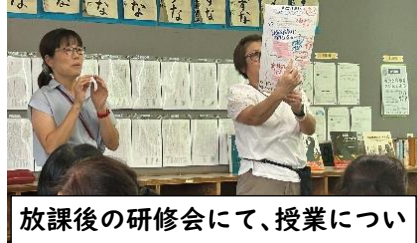
9月8日の5年1組国語「物語のおもしろさを解説しよう」では、物語「注文の多い料理店」における表現の工夫の効果について交流し、子どもたちが「なぜ」「どんな効果が」という問いを「問い」にしていきました。子ども一人ひとりが学習のポイントを意識した「自分の問い」を持つことで、学びの主人公となり、学習を進めていくことをねらっています。



身に付けたい力と学習の道すじを意識



表現の効果を話し合う5年生



放課後の研修会にて、授業について協議した意見を発表する職員

「全国学力・学習状況調査結果（6年生、4月実施）から

全体的には、国語、算数ともに基礎力と応用力がしっかり育っていることが分かります。特に全国的に苦手とされる「思考・判断・表現」や「記述式問題」にて高い傾向が見られました。

国語では、「話すこと・聞くこと」及び「読むこと」はとても高い結果が見られましたが、それに比べ「書くこと」が低い傾向にあります。これは全国も同様の傾向ですが、本校はさらにその差が大きく開いています。「多様な文章全体の展開や構成の工夫」を考えて書き、読む時にはただ読むのではなく、読む目的を意識して内容を読み取っていくことの積み重ねが必要です。

算数では、「記述式問題」や抽象的な計算は得意な反面、「実際の時間の感覚」や「直方体の形」のような日常の具体的な状況を整理して計算する「測定」の領域に課題が見られました。

質問紙調査結果からは、「国語の勉強は好き」「国語は生活に役立つ」と考えている児童が多い反面、算数については「生活に役立つ」と考えられない児童が多く見られます。また、「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している」ことが最も低い回答でした。友だちや学校、道徳や学活については、高い結果が多く見られましたが、個々の児童を見て、対応していく必要があると考えます。

今後、学校では、「書く力」に関する継続、発展的な取組、算数の問題場面を日常生活に置き換えて考える場面などを増やしていきます。

日常生活では、「家を出るまであと何分？」という時間の意識化、スーパーのチラシを見て「どっちがお得？」と一緒に考える日常のデータ活用、「なぜそう思ったの？」と自分の言葉で説明する機会を増やすことも有効です。

(本調査は学力の一部を見るものであり、個人差があることにも十分留意する必要があります。)